

若手の会は 1996 年の発足以来、本年で丸 15 年を迎える。節目の年となる本年は、「ワークライフバランスを考える～人生のスキルアップに向けて～」と題する講演会を企画し、大会 2 日目 13 時 50 分から約 1 時間半、和洋女子大学 A 会場にて約 40 名の



参加を得て開催された。本企画の目的は、多種多様なライフコースを選択できる現在において、研究者として活躍されている諸先輩方の体験を伺い、これからの研究者としての生き方、オフィシャルとプライベートのバランス等を考える、というものである。講演 1 は「私のライフコースー高卒の専業主婦から大学教授にー」と題して中川英子氏(宇都宮短期大学)よりお話を伺った。中川氏は、学業修了後 20 年程のブランクを経て再び学び始めたが、その際、ご自身の家計簿分析が大学院でのテーマへとつながり、介護福祉や生活支援の家政学といった現在の研究に自らの経験が活かされている、と語られた。講演 2 は「住環境の研究を継続するために 今想うこと」と題して、東実千代氏(畿央大学)よりお話を伺った。東氏は、出産にあたり仕事を辞め、再び始めたご自身の経験から、何事も目標通りにいく訳ではなく、想定外のことも起こるが、どのような時もしなやかに対応して欲しい、上手いかない時こそ行動が必要、また、外へ出てネットワーク作りをして欲しい、と語られた。講演 3 は「子育てと研究の両立に向けた取り組みから考えること」と題して佐藤裕紀子氏(茨城大学)よりお話を伺った。佐藤氏は、子育て期の生活時間配分や職住近接、職場での良好な人間関係づくり等について語られ、あきらめず、くじけず、しなやかに生きること、子どもの個性や利用できる資源の違いをふまえ、両立にむけては自分なりの方法を探していくことの大切さをメッセージとして述べられた。

ご講演はいずれも、演者の方々のご経験に基づく貴重な示唆に富み、時にユーモラスに語られ、会場は笑いと共感に溢れていた。短い時間ではあったが、悩み多き若手研究者が、改めてワークライフバランスについて考え、未来に向けての活力を養うのに十分な講演であったと考える。

最後に、本年度幹事の一員として本企画の構想から運営に至るまで尽力された宇都宮短期大学の松田佳奈氏が大会直後に急逝された。若手の会幹事一同は、松田氏を心より悼むと共に、若手の会の活動を通じての、家政学を志す仲間との連帯感の共有、専門分野を越えた交流が、家政学研究の発展につながることを信じ、若手の会の活動をさらに活性化させていく所存である。

(若手の会幹事一同)